

真面目な落書き

1953年、ロバート・ラウシェンバーグはウィレム・デ・クーニングに一風変わったリクエストをしました。ラウシェンバーグは絵を消すことによって、そこから生まれる新しい作品を作りたかったのです。

2008年初頭、ラウシェンバーグのリクエストにどこか同調するかの様に、今津杏子は、デーモン・コワスキーに彼の作品に落書きしてもよいかと尋ねました。コワスキーは以前にも数々のアーティストと共同企画をしており、今回の新たなパートナーシップの可能性にワクワクしたと言っています。

コワスキーと今津は作品の制作過程によって、より自由にアイデアを探求していくことができます。

まずコワスキーが今津に絵を渡し、それに彼女が自身のイメージを加えていく、という作業から始まり、それから銅板に一人一人の絵を書き写し、最終的にエッチングにしていきます。

一見すると、彼らの作品は可愛らしさ又、おとぎ話や絵本の世界観にあふれているように見えます。2人共自然、科学、そして近代社会に関心を持っていることが明確に見受けられます。有機的なキャラクターからにじみ出るユーモアは、共有する生態系や環境に対する洞察力によって裏付けられた具体的な社会的、文化的なアイデアを表明しています。このプロジェクトはアイデアの交換、交流であると同時にお互いのそれぞれの創作への順応性により成り立っていると言えるでしょう。

コワスキーと今津がファセットネットへ共同参加することはうってつけでしょう。このシドニー国際交流基金のプログラムはそれぞれの地元のアーティストが、オーストラリアと日本のアイデアと文化の交流をする舞台を提供しています。2010年からイソップ青山店で行われた同店の内装ともなる作品の展示を含む6つの展示会を終え、ファセットネットにより、2人にはアイデアや制作方法を広げるチャンスが広がっています。

ラウシェンバーグとデ・クーニングの共同制作が白紙に至った一方、コワスキーと今津の共同制作は2つの異なる創作がハイブリッドに融合することができることを証明しているようです。2012年にさらに予定されている展示会によりこの二人のパートナーシップは、より強く深くなっていくでしょう。

それは、お互いを尊重し、共に尽力した共同制作の証です。

デビット・ハガーはメルボルンを拠点に活動する作家兼、学芸員である。

ハガー氏はブラックアートプロジェクトの共同ディレクターでもある。

APPROPRIATE VANDALISM

In 1953 Robert Rauschenberg made an unusual request of Willem de Kooning. Rauschenberg wanted a drawing to erase, thereby creating a new work of art.

At the beginning of 2008, and somewhat echoing Rauschenberg's request, Kyoko Imazu approached Damon Kowarsky and asked if she could 'vandalise' his work. Kowarsky had previously worked with other artists on collaborative projects and was excited by the prospect of this new partnership.

Kowarsky and Imazu's process allows them a freeform exploration of ideas. Kowarsky gives Imazu a drawing, to which she adds her own imagery. They then prepare the copper plate with their individual components before producing the final etching together.

At first glance their work brims with charm and storybook narratives. It is clear that both artists have a fascination for nature, science, and the modern world. However the humour that surfaces in their biomorphic characters asserts very concrete social and cultural ideas underpinned by their shared ecological and environmental vision. This is a project as much about the exchange of ideas as the adaptation of each other's practices.

It is fitting that Kowarsky and Imazu have come together for *Facetnate!* This program, an initiative of the Japan Foundation, Sydney, provides a platform for local artists to engage in the exchange of ideas and culture between Australia and Japan. With six exhibitions since 2010, including a permanent, site-specific installation at Aesop Aoyama in Tokyo, *Facetnate!* offers Kowarsky and Imazu the opportunity to further expand their ideas and production methods.

While the pairing of Rauschenberg and de Kooning resulted in a blank sheet of paper - literally *nothing* - Kowarsky and Imazu's collaboration demonstrates how two distinct practices can undergo hybridisation. With further exhibitions planned for 2012 this partnership continues to flourish. It is evidence of their dedication to true collaborative activity.